

ニュース

○池袋一神田間地下鉄工事

帝都高速度交通営団において、既設の渋谷一浅草間（3号線と称す）14.3秆と別に4号線池袋一新宿間22秆のうち池袋一神田間の工事を昨年4月着工し、早速本誌の36巻6号（昭和26年6月）で紹介したが、この路線は、国電山手線の池袋駅一神田駅間の短絡線になり、国電に比し距離で3.5秆、時間で7分の短縮となり、さらに引続き丸の内、有楽町への計画も進めているので、都民の通勤緩和と、国電山手線より都心への放射線となり、都市における高速度鉄道の重要な役割を果すわけである。

施工法としてはいわゆる切開式（Open Cut）が大部分で一部隧道式もある。構築の隧道部は鉄筋コンクリート函形、高架部は鉄筋コンクリートスラブにして、防水はメソブレーン2層式であつて、まづ隧道構築の外側に沿いI形鉄杭を適当な間隔に打込み、停車場部分にあつては構築巾が広くなるため、さらに中間杭を打込む。

この鉄杭を溝形鋼及び山形鋼にて、隧道方向に連繋し、これを受台として道路横断方向にI形鋼を架げ渡

し路面覆工をなしそれより順次階段式に掘さくし、構築は底部、側部、上部の順に施工し完成をまつて跡埋をなし原形に復旧するものである。

本工事に取入れた、新工法としてコンクリートはすべて生コンクリート（Ready Mixed Concrete）を磐城コンクリート及び浅野コンクリート会社製品を使用している。

なお狭隘な場所には国産のコンクリートポンプを使用した。他は列記するほどのこともない。池袋一神田間7.7秆のうち、池袋一お茶の水間6.6秆は28年末開通を目標にして工事を進めているので、隧道区間は全部着工し、表-1のごとく完成した区間もあるが、清水谷から春日町の都電上を越え、真砂町の台地に突込むまでの区間は地上線となり後楽園附近は高架橋となる。

清水谷、第六天町、金富町、水道町、後楽園の5工区は12月20日に入札決定したばかりである。

総工費は約50億円の予定で、隧道が完成した区間は、西巣鴨、辻町、雀町、湯島の各4工区で、一部軌道材料搬入も終え、軌道敷設工事、電気工事も着々と進んでいる。

以上のごとく工事もいよいよ最盛期に入つたのでよろしく御観察の上御批判を仰ぎたい。

図-1 池袋一神田間建設線略図

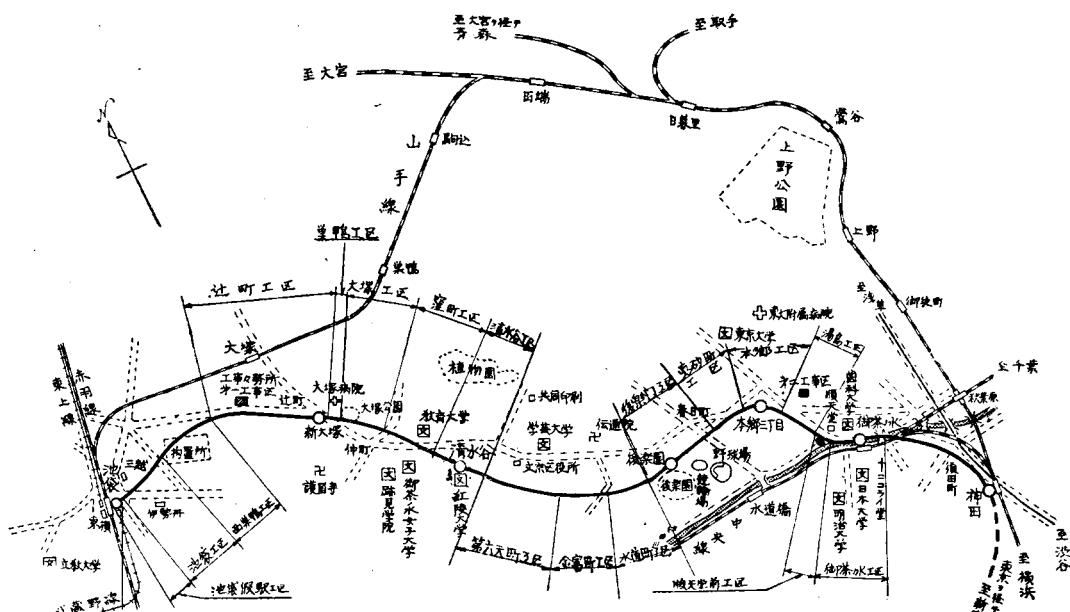


表-1 新線建設工事進捗状況（昭. 27.12.20. 現在）

No.	工区名	施工延長 m	請負金額 千円	竣工年月日	請負業者	出来高 %	摘要
1	池袋仮駅	38.5	42 270	28. 9.15	清水	10	
2	池袋	486.7	100 611	28. 5.31	大和	82	
3	西巣鴨	620.0	113 753	27. 8.31	鹿島	100	
4	辻ヶ原町	685.5	130 749	27.12.31	前田	100	
5	大塚	174.5	34 300	28. 9.20	西松	0	
6	大塚	384.0	60 393	28.10.10	"	25	
7	新宿町	442.5	79 382	28. 1.15	鉄道建設	99	
8	渋谷	418.5	60 080	28.11.10	鉄道工業	0	
9	第六天町	565.0	79 500	28. 9.20	飛島	0	
10	金富町	400.0	57 700	28.11.20	酒井	0	
11	水道町	320.0	58 460	28.12.10	佐藤	0	
12	後楽園	569.5	78 000	28. 9.20	谷	0	
13	真砂町	309.5	62 500	28.12.31	大林	0	
14	本郷	256.3	62 600	28.12.20	間	0	
15	湯島	405.9	78 066	28.11.20	"	100	
16	順天堂前	98.7	18 000	28. 3.29	"	70	
17	御茶の水	398.5	110 660	28.12.20	大成	18	

写真-1 池袋仮駅附近現場



写真-3 のび行く地下鉄



写真-2 開業を待つ新大塚駅



(帝都高速度交通営団)

的解明することを主体とし、講座は土質力学入門、試験法の詳細な解説などが豊富に取入れられて、土質技術者の新入養成に重点がおかれている。

従つて従来の国際委員会とは別に国内会員として少額の会費で会員組織をとることとなる予定である。

現場における直接施工者が横の連絡をとる便を考えて、各省、各研究所、各大学の工事、研究ニュースも充分とり入れて、いたづらに一人で苦労することないように注意されるはずである。

本委員会が主体となつてつくられた土質試験法の JIS はその後、路床土支持力試験、道路の土質ならびに試料採取方法、アーズ・ダムの土質調査のための試料採取方法、現場密度の測定法、平板載荷試験法も完成し、12月26日工業技術院工業標準基本部会において承認され2月中に発行する予定である。(谷藤正三)

○土質基礎工学委員会活動状況

本春5月スイスにおいて開催される国際土質基礎委員会議に代表を派遣する方針で関係官庁と接衝中であり、数名の代表を送ることができる見込みである。

本年度より土質力学の啓蒙宣伝のため機関誌を季刊として発行する予定にて目下編集部で構想を練つております、大体2月中旬までに原稿も集まり、4月中に発行可能の域に達している。内容は現場の工事を土質力学

◎第8回理事会（昭. 28. 1. 13）出席者：立花副会長、富樫、中島、本間、佐島、高畑、岡本、榎の各理事、協議事項：1) 12月中各種委員会その他報告、2) 昭和28年総会及び第9回年次講演会について、3) 国際会議代表者推薦について、a)国際水理学会大会（Minneapolis）石原藤次郎、本間仁、佐藤清一の3君、b) 第3回国際土質基礎工学委員会大会（Zürich）星埜和、村山朔郎の2君 c) 国際熔接学会（Copenhagen）田中五郎君、4) 土木賞委員会を2月初旬開催のこと、5) 基金運用について、6) 日本工学会主催アジア工学工業大会を1954年10~11月開催について、7) 会員入退会について

◎各種委員会

1. 編集委員会（昭. 28. 1. 20, 21）出席者：本間、佐島正副委員長、村山、荒井両地方委員、岡本、菊池、安部、細井、岩塚、矢野、平井（代）、森の各委員、協議事項：1) 会誌及び論文集進捗状況報告、2) 原稿審査報告及び新原稿審査委員の決定、3) 第38巻3号登載論文を下記のとおり決定した。

伊藤剛：米国の河川事情、加納信二：アメリカのトソネル工事を見て、畠昭治郎：ぜい性材料の切削について、村山朔郎・越賀正隆・三瀬貞：アルミニニューム電極による土の電気化学的固結方法について、江藤智：重力操車場の設計について、村田二郎：コンクリートの癒着について、

4) 抄録について、5) 討議依頼先の決定、6) 土木賞候補論文の下審査、7) 委員補充その他

2. 第12回法面築堤崩壊防止委員会（昭. 28. 1. 23）出席者：最上、高坂、仁杉、宮崎の各委員、渡辺、三木、岩塚、山口、市嶋、斎藤、白石、伊崎、大場、池田の各幹事、松波、高橋、木村、浜の各研究員、協議事項：1) 前回に引き続き条文の審議を行つた。

◎その他

1. 第2回国土木建築両学会フルイ規格に関する打合

会（昭. 28. 1. 8）出席者：（建築）藤田、平賀、久良知、野平、狩野、田中の諸氏、（工業技術院）笠石、柴川の両氏、（土木）吉田、青木、川口、国分の諸氏、協議事項：工業技術院基本部会の意を受けた青木、藤田両委員から経過説明の後協議の結果、規格表の右端欄に「コンクリート用骨材フルイの呼名」欄を設けるよう提案することとした。

2. 世界動力会議国際大ダム委員会の日本国内委員会発起人会及び創立総会（昭. 28. 1. 16）日比谷の電力中央研究所会議室において開催、発起人大部分出席、大西英一氏を議長に推し、各役員の選挙等を経て、めでたく発足した。事務所は当分電力中央研究所内に置き、事務は動力協会において取扱うこととした。

3. 元中部支部長比企野廣治氏は1月6日狹心症で急逝されたので、学会長より弔電と花輪を靈前に呈し謹んで哀悼の意を表した。

支 部 だ よ り

1. 北海道支部 幹事会（昭. 28. 1. 17）出席者：岩本幹事長外各幹事、協議事項：昭和27年度研究発表会を2月26、27両日北海道大学工学部講堂において開催することとし発表者約25名の予定で準備する。

2. 東北支部 役員会（昭. 28. 1. 30）本部の要請に基づき5月総会及び第9回年次講演会を仙台市で開催することについて協議し、別項「お知らせ」欄のとおり決定、準備を進めることとした。

3. 中部支部 第9回幹事会（昭. 28. 1. 16）出席者：石川支部長、高桑幹事長、村瀬、小村、渡辺、鈴木（和）、中谷、長坂、小栗（代）、片岡（代）、鈴木（代）、井上（代）、早川（代）、和久（代）、増山（代）、戸田（代）、四野宮（代）、議事：1) 比企野顧問逝去報告、2) 第3回役員会報告、3) 比企野氏（土木賞委員会委員及び地区常議員）後任として名工大教授荒井利一郎氏を推薦すること、4) 1~3月行事について

昭和28年1月分入退会報告（昭. 1. 5 ~ 1. 31, 現在）

1. 入会 43名（正16、准19、学8） 2. 退会 17名（正9、准7、学1） 3. 転格 2名（准より正2）

会 員 現 在 数 (28. 1. 31 現在)

名譽員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	合計	増加数
19	16	249	4739	5312	1217	11552	26

昭和28年2月10日	印刷	土木学会誌	定価 100円
昭和28年2月15日	発行	第38巻 第2号	

編集兼発行者	東京都千代田区大手町2丁目4番地	中川 一美
印刷者	東京都港区赤坂溜池5番地	大沼 正吉
印刷所	東京都港区赤坂溜池5番地	株式会社技報堂

東京中央局区内 千代田区大手町2丁目4番地	電話 和田倉(20)3945番
発行所	法人 土木学会 振替 東京 16828番